



第155期救急科を実施しました

[期 間] 令和7年1月15日（水）から3月5日（水）まで
34日間

[会 場] 埼玉県消防学校
所属消防本部（局）

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な
観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊
員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任
教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 23消防本部（局）83名
平均年齢24.8歳

埼玉県消防学校 第155期救急科 日課表

令和7年1月15日(水)～令和7年3月5日(水)
34日間 272時間

受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

日	曜日	1時限 8:30～9:20	2時限 9:20～10:10	3時限 10:10～11:00	4時限 11:10～12:00	5時限 13:00～13:50	6時限 13:50～14:40	7時限 14:50～15:40	8時限 15:50～16:40
1/15	水	入校式	ガイダンス (担当教官)			救急活動(法規) (戸田市消防本部 小松 巧 講師)			
1/16	木	循環器・出血 (川口市消防局 小原 寛 講師)			神経 (深谷市消防本部 大澤 勇介 講師)				
1/17	金	消化器 (西入間広域消防組合消防本部 小嶋 恭平 講師)		呼吸器 (行田市消防本部 由利 洋介 講師)		皮膚・感覚器 (吉川松伏消防組合消防本部 杉井 卓人 講師)			
1/20	月	効果測定① (担当教官)	泌尿・生殖器 (埼玉東部消防組合消防局 丸山 歩 講師)		運動器 (埼玉県中央広域消防本部 磯崎 雅彦 講師)			社会保障・社会福祉Ⅱ (社会福祉課)	
1/21	火	観察 (さいたま市消防局 醍醐 雅祥 講師)			内分泌・代謝 (埼玉県南西部消防局 鈴木 広高 講師)		救急医療 (医療整備課)		
1/22	水	ショック (熊谷市消防本部 木村 聡 講師)			CPA・CPR (蕨市消防本部 渋谷 淳一 講師)				
1/23	木	血液・体液・熱中症 (埼玉県南西部消防局 岩田 浩之 講師)		社会保障・社会福祉Ⅲ (地域包括ケア課)	細菌・感染症・感染防止・消毒 (上尾市消防本部 関根 範道 講師)				
1/24	金	応急処置総論・各論 (埼玉西部消防局 三浦 啓太 講師)			熱傷・電撃症・救急搬送 (埼玉西部消防局 平岩 輝一 講師)				
1/27	月	急性心血管系疾患 (比企広域消防本部 大木 克仁 講師)			急性腹部疾患 (羽生市消防本部 岡野 俊之 講師)				
1/28	火	急性呼吸器疾患 (児玉郡市広域消防本部 石井 隆行 講師)			脳血管障害 (草加八潮消防局 眞貝 健志 講師)				
1/29	水	外傷総論・その他外傷処置 (埼玉東部消防組合消防局 宮澤 広延 講師)			意識障害 (熊谷市消防本部 木村 聡 講師)				
1/30	木	集団災害 (川越地区消防局 福本 淳也 講師)			一般外傷各論 (春日部市消防本部 水越 禎之 講師)				
1/31	金	腹部外傷 (蓮田市消防本部 阿部 聡 講師)			脊椎・脊髄損傷 (埼玉西部消防局 北田 将次 講師)				
2/3	月	頭部・顔面外傷 (秩父消防本部 松尾 一樹 講師)			胸部外傷 (三郷市消防本部 豊田 麻里 講師)				
2/4	火	効果測定② (担当教官)	検査・高齢者 (坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部 山岸 裕司 講師)		処置各論(在宅療法) (入間東部地区事務組合消防本部 枝窪 慎也 講師)				
2/5	水	急性中毒 (川口市消防局 小原 寛 講師)		資器材取扱 (旭化成ZOLLメディカル)	処置各論(心電図) (埼玉県中央広域消防本部 金子 悟 講師)				
2/6	木	小児救急医療 (さいたま市消防局 醍醐 雅祥 講師)			産科・周産期 (草加八潮消防局 宮田 晃宏 講師)				
2/7	金	精神救急 (上尾市消防本部 児島 雅史 講師)		鑑識 (埼玉県警察)	四肢・骨盤外傷 (越谷市消防局 當間 貴幸 講師)				
2/10	月	異物・溺水 (越谷市消防局 松沢 聡史 講師)		接遇 (さいたま市消防局 醍醐 雅祥 講師)	安全管理		実技訓練概要 (担当教官)		

座学

第一回事前

第二回事前

第三回事前

訓練場所 埼玉県消防学校 大講義室 屋内訓練場

		1 時限 8:30~9:20	2 時限 9:20~10:10	3 時限 10:10~11:00	4 時限 11:10~12:00	5 時限 13:00~13:50	6 時限 13:50~14:40	7 時限 14:50~15:40	8 時限 15:50~16:40							
実技	2/12	水	後日掲示の救急科タイムテーブル参照													
	2/13	木														
	2/14	金														
	2/17	月														
	2/18	火														
	2/19	水														
	2/20	木														
	2/21	金								産婦人科救急訓練 (草加八潮消防局 永井 義隆 講師)						
	2/25	火								内因性シミュレーション						
	2/26	水								外因性シミュレーション						
	2/27	木	効果確認シミュレーション													
	2/28	金	総合シミュレーション													

受講場所 所属消防本部 (局)

実技	3/3	月	現 場 実 習
	3/4	火	現 場 実 習

受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

		1 時限 8:30~9:20	2 時限 9:20~10:10	3 時限 10:20~11:10	4 時限 11:10~12:00	5 時限 13:00~13:50	6 時限 14:00~14:50	7 時限 15:00~15:50	8 時限 15:50~16:40
座学	3/5	水	R・I (埼玉県衛生研究所)	資機材取扱 (コーケンメディカル)		社会保障・社会福祉 I (国保医療課)	救急交通 (埼玉県警察)	修了式 (担当教官)	

集団災害(机上訓練)



ストレッチャー取り扱い訓練



気道内異物除去訓練



車外救出訓練



分娩訓練



シミュレーション訓練



川越地区消防局 吉田 壮 消防士長 *第1小隊総代

修了しての感想

埼玉県消防学校救急科を通じて、多くの貴重な経験を積むことができました。救急現場では一刻を争う状況で、冷静に現場を見極め、迅速な判断と対応が求められます。知識と技術の重要性を改めて実感しました。特に心肺蘇生法や重篤な外傷の対応では限られた時間の中で、適切な処置を行う難しさとやりがいを強く感じました。

研修を終え、自身の未熟さを改めて実感し、また課題も見えてきました。今後も知識、技術を磨きどのような状況でも冷静に対応できる力を身に付けていきたいと思えます。指導して下さった埼玉県消防学校の専科教官、座学に来ていただいた講師の方々、実技教官の方々に心より感謝を申し上げます。



後輩へのメッセージ

救急業務に不安を抱きながら入校する方もいると思います。私自身もそうでした。けれども入校希望の皆さん安心してください。この救急科には最高の教官、講師が懇切丁寧な指導をしてくれます。そして必ず最高の仲間ができるはずです。笑顔のたえない研修になることは間違いありません。全力で楽しんで、たくさん失敗して実り多く、救急科を過ごしてください。最後になりますが、食堂のごはんがおいしすぎるので、体重管理だけお気を付け下さい。

春日部市消防本部 岩見 昂平 消防士長 *第2小隊総代

修了しての感想

第155期救急科83名のために、専科教官の方々をはじめ、担当教官の方々の丁寧なご指導と訓練のしやすい環境を整えていただき、本当にありがとうございました。

私はこれまで救急に対して興味はあったものの、なかなか勉強する機会がありませんでした。今回救急科に入校できたことで、傷病者の容体に合わせた観察、処置、評価を理解することができたとともに、傷病者に寄り添える隊員になりたいという強い気持ちを持つことができました。また、訓練だからこそ失敗を恐れず、貪欲にチャレンジしたことで得た知識と経験は、時間がたっても鮮明に覚えています。

この知識と経験を現場で活かしていき、市民の方々に貢献し信頼され必要とされる隊員になれるようになりたいです。短い間でしたがありがとうございました。



後輩へのメッセージ

消防職員としてだけでなく、家族や大切な人を守る知識を得ることができるとても有意義な訓練課程です。また、様々な消防本部の職員とも繋がれることで、情報交換ができるほか、救急科は埼玉県消防学校の訓練課程の中で2番目に長いこともあり、仲間と

共に過ごす時間が多く、一生の繋がりのある仲間を作ることができます。ぜひ救急科で得た学びと仲間との繋がりを今後の消防人生で活かしてください。

吉川松伏消防組合消防本部 秋元 将吾 消防副士長 * 第1小隊副総代

修了しての感想

第155期救急科では、たくさんの仲間と切磋琢磨して助け合いながら日々成長することができました。「傷病者に寄り添う」これは知識や技術がなくても誰にでもできることで一番忘れてはいけないことだと思います。

私はこの救急科で得たものをこれからの救急現場で発揮し、人の心も救える隊員を目指します。この救急科に携わっていただいた全ての方に感謝します。本当にありがとうございました。



後輩へのメッセージ

職歴や経験の違いはありますが救急科で出会った仲間を大切にしてください。34日間という期間は長いようであっという間に過ぎ去ってしまいます。1日1日を悔いなく過ごして欲しいと思います。そしてここでしか学べないことがたくさんあります。自分の武器を増やして現場活動に活かしてください。

入間東部地区事務組合消防本部 瀧澤 祐太 消防副士長 * 第2小隊副総代

修了しての感想

まずこの度は専科教官におかれましては大変お世話になりました。また座学講師、実技教官におかれましては業務ご多忙の中、ご指導頂き感謝申し上げます。

私は勤続年数が長い者として、学生の大半が年齢の若いなかどう接して学んでいけばよいか不安に思いました。

しかし「救急の知識、技術を身に付ける。」という目的のもと、講師の座学を学び、指導を受けながら実技を行うとともに、他の学生の意見の交換をすることにより、明確な知識、技術を身に付けることができました。

この34日という期間は長いようでとても短く、1日1日とても充実した日々を送ることができました。この学びを実際の業務に活かし、更なる活躍を望みたいと思います。



後輩へのメッセージ

救急科で学ぶことの大事な項目に「ミスや失敗をしろ」という項目があります。この消防学校救急科では資器材や場所など恵まれた環境の中で学び、実践することができます。ですので失敗やミスをして責任を問われることはありません。人はミスや失敗をする生き物です。しかしそのミスから学ぶべきところがたくさんあります。

だからこそ消防学校救急科という場で失敗やミスをして知識や技術のひきだしを多く作って実際の現場で活用して欲しいと思っております。

救急科での学びを活かしたうえで、個々の活躍、各消防組織のますますのご発展をお祈り申し上げます。